



263

中学生向け

年組

記事は加工しています

2025年6月2日付・下野新聞5面

マンデー BIZ 2197

液体と固体を分離（固液分離）する布のフィルター「ろ過布」の製造・販売を手がける数少ない国内メーカーだ。日本酒の製造から工業排水の処理まで多岐にわたる現場を支える。顧客のニーズに応じた小ロットでのオーダーメイド商品の開発を得意とし、実績を積み重ねている。
(稲葉雄大)

父の善一郎氏（79）が1973年に創業し、空調関係のフィルターを製造販売した。流行に左右されない工業資材を扱うことが狙いだった。「創

大塚実業
(足利)

おおつか まさゆき
大塚 雅之 社長（56）

ろ過布開発 多品種対応

業時から多品種・小ロットで精度を求めてきた」とルーツを語る。
エアコンの普及に伴

交換頻度が少なくて済む。交換作業のコストや作業に伴う関連機械の停止回数を減らすことがで

きる。経費削減と長寿命が真剣に考えているから、われわれの技術が磨かれていく」と強調する。

国内拠点は足利、東京、大阪の計3カ所、今後は北海道や九州、ベトナムにも営業拠点を拡大する方針だ。事業の固液分離と密接な「水」の問題をライフワークとし、東南アジア諸国の飲料水の環境改善に取り組む構想を練る。

だ」と強調する。

い、海外製の安価なフィルターと競合する中、大手繊維関連企業の倒産に伴い、関連工場の取引先を引き受けたことが転機となった。固液分離を専門に布織りから手がける現在のビジネススタイルが始まった。

顧客の用途に合わせて、糸の素材や織り方を組み合わせた。織った布地をアジア最大規模という巨大なローラーの間に通し、熱と圧力を微調整しながらプレスする加工技術が特徴で、一つの生地

で目の細かさを多彩に調節できる。
オーダーメイドのフィルターは既製品に比べて

製造現場ではデジタル技術の導入を進める。現状は手書きしている作業記録を人工知能（AI）を使ってデータ化することで省力化を目指す。将来的には音声で作業工程を記録することも視野に入れる。新技術を現場で活用するために「チームをつくり、成功体験を積み重ねていくことが重要

ニッチ企業の2代目として重視するのは、身近な人から社会全体にまで貢献するという経営理念だ。「働いている人が充実し、長い目で見てその家族、地域が幸せでいられるような会社にした」と理想を語った。

成長への
道しるべ

28

「みんなが幸せになるために何ができるかを考えていきたい」と経営理念を語る大塚社長。足利市



【企業メモ】「ろ過布」の専門メーカー。足利市福居町1745の1。従業員48人。売上高は2025年3月期で6億1千万円。大塚社長は足利市出身。旅行代理店を経て1994年、大塚実業に入社し、2009年から現職。公益資本主義推進協議会（PICC）や日本液体清澄化技術工業会（LFPI）の理事などを務める。

設問

【1】記事の本文で使われている次の漢字の読み方を答えましょう。

多岐、繊維、既製、削減、拠点

【2】この記事から分かる情報として正しいものには○を、間違っているものには×を書きましょう。

ア 大規模生産と大量受注をすることで、顧客側の交換作業のコストや作業に伴う関連機械の停止回数を減らすことに一役買っている。

イ 会社で使用している巨大ローラーは国内でも有数の規模を誇り、熱と圧力を微調整しながらプレスする技術はこの会社の強みとなっている。

ウ 大塚さんは30代で社長に就任し、今では複数の業界団体の理事も務めている。

エ 競合他社の少ない製品を製造しているこの会社は、デジタルトランスフォーメーションにも力を入れている。

オ 同一生産品の少数注文も請け負っており、顧客の需要に応えるための商品開発に長い時間をかけることもある。